

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-51179

(P2010-51179A)

(43) 公開日 平成22年3月11日(2010.3.11)

(51) Int.Cl.
A01M 1/20 (2006.01)F 1
A01M 1/20テーマコード (参考)
2B121

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2008-216503 (P2008-216503)
(22) 出願日 平成20年8月26日 (2008.8.26)(71) 出願人 000112853
フマキラー株式会社
東京都千代田区神田美倉町11番地
(74) 代理人 100073818
弁理士 浜本 忠
(74) 代理人 100096448
弁理士 佐藤 嘉明
(72) 発明者 山崎 聡
広島県廿日市市梅原1丁目11番13号
フマキラー株式会社内
(72) 発明者 武井 康治
広島県廿日市市梅原1丁目11番13号
フマキラー株式会社内
Fターム(参考) 2B121 AA12 CA02 CA05 CA15 CA20
CA43 CA44 CA61 CA76 CC02
CC29 EA01 FA03 FA08

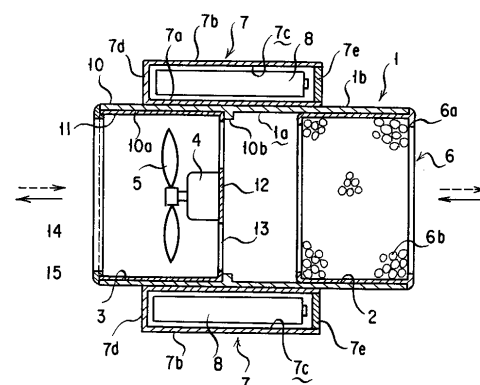
(54) 【発明の名称】 送風式薬剤放散装置

(57) 【要約】

【課題】装置本体を短い筒体形状にできると共に、薬剤保持体を任意の大きさにでき、継続して長時間使用できる送風式薬剤放散装置とする。

【解決手段】装置本体1の内部1aに、モータ4で回転されるファン5と薬剤保持体6を取付けると共に、その装置本体1に、内部1aを外部に開口する第1流通口2、第2流通口3を形成してファン5の回転によって空気が薬剤保持体6に触れて薬剤を揮散し、その薬剤を空気とともに大気放散するようにし、前記装置本体1の外周に電源収容部7を設け、この電源収容部7に収容した電池8で前記モータ4を駆動するようにする。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

筒体形状で第 1 流通口 2 と第 2 流通口 3 を有した装置本体 1 の内部 1 a に、モータ 4 で回転されるファン 5 と薬剤保持体 6 を、そのファン 5 の回転によって前記第 1・第 2 流通口 2, 3 に亘って空気が流通して薬剤保持体 6 から薬剤が揮散し、かつその揮散した薬剤が空気とともに大気に放散されるように取付け、

前記装置本体 1 の外周に電池収容部 7 を設け、この電池収容部 7 内に電池 8 を装置本体 1 の長手方向に向けて収容し、その電池 8 で前記モータ 4 を駆動するようにしたことを特徴とする送風式薬剤放散装置。

【請求項 2】

装置本体 1 と電池収容部 7 を別体とし、その電池収容部 7 を装置本体 1 の外周面 1 b に嵌合して取付けるようにした請求項 1 記載の送風式薬剤放散装置。

【請求項 3】

装置本体 1 を小径部 1 f と大径部 1 g を有する筒体形状とし、その小径部 1 f にカバー体 2 1 を取付けて電池収容部 7 とした請求項 1 記載の送風式薬剤放散装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、殺虫剤、害虫忌避剤、芳香剤、消臭剤、除菌剤などの薬剤を大気に放散する送風式薬剤放散装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、ファンの回転によって空気を薬剤に触れさせて薬剤を揮散し、その揮散した薬剤を空気とともに大気に放散するようにした送風式薬剤放散装置が種々提案されている。

例えば、特許文献 1 に開示されたように、筒体形状の装置本体内に、モータで駆動されるファン、薬剤、電池を取付け、その電池を電源としてファンを回転することで通気孔を通して装置本体内に空気が流入し、その空気が薬剤に触れて薬剤を揮散し、その揮散した薬剤を通気孔を通して大気に拡散する送風式薬剤放散装置が知られている。

【0003】**【特許文献 1】実開昭 62 - 175879 号公報****【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

前述した送風式薬剤放散装置は、装置本体が筒体形状の単純かつ簡単な形状であり、形状的にも頑丈である。

また、設計的にも筒体形状の装置本体内部を区画してモータ、ファン、薬剤、電池を収容するスペースを区画すればよく、構成部材も少なく、成型も容易である、等の多くの利点を有している。

しかしながら、モータ、ファン、薬剤、電池が装置本体の長手方向に順次配設してあるので、装置本体はそれらの取付けのスペースを長手方向に必要とし、装置本体は長い筒体形状になってしまう。

また、装置本体の内径は電池の大きさで決まり、ファン、薬剤の大きさが電池の大きさで決まり、任意の大きさとすることができない。

また、装置本体の内径には限度があるから、収容できる電池の本数に限度があり、薬剤放散装置を継続して使用できる時間が短い。

【0005】

本発明の目的は、装置本体を短い筒体形状にできると共に、ファン、薬剤保持体の径方向の大きさを電池の大きさに関係なく任意の大きさにでき、しかも収容できる電池の本数が多く、継続して使用できる時間が長い送風式薬剤放散装置とすることである。

【課題を解決するための手段】

10

20

30

40

50

【 0 0 0 6 】

本発明は、筒体形状で第 1 流通口 2 と第 2 流通口 3 を有した装置本体 1 の内部 1 a に、モータ 4 で回転されるファン 5 と薬剤保持体 6 を、そのファン 5 の回転によって前記第 1・第 2 流通口 2, 3 に亘って空気が流通して薬剤保持体 6 から薬剤が揮散し、かつその揮散した薬剤が空気とともに大気に放散されるように取付け、

前記装置本体 1 の外周に電池収容部 7 を設け、この電池収容部 7 内に電池 8 を装置本体 1 の長手方向に向けて収容し、その電池 8 で前記モータ 4 を駆動するようにしたことを特徴とする送風式薬剤放散装置である。

【 0 0 0 7 】

本発明においては、装置本体 1 と電池収容部 7 を別体とし、その電池収容部 7 を装置本体 1 の外周面 1 b に嵌合して取付ける送風式薬剤放散装置とすることができる。

【 0 0 0 8 】

このようにすれば、装置本体 1 と電池収容部 7 を別々に製作し、電池収容部 7 を装置本体 1 に嵌合して組み立てできるので、その作業が容易である。

【 0 0 0 9 】

本発明においては、装置本体 1 を小径部 1 f と大径部 1 g を有する筒体形状とし、その小径部 1 f にカバー体 2 1 を取付けて電池収容部 7 とした送風式薬剤放散装置とすることができる。

【 0 0 1 0 】

このようにすれば、電池収容部 7 の装置本体 1 の外周面 1 b からの突出寸法を小さくできるし、装置本体 1 の外周面 1 b と電源収容部 7 の外周面を面一に連続して外觀がスッキリと見栄え良くできる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、装置本体 1 の外周に電池 8 が設けられるので、その電池 8 の長さに関係なく装置本体 1 を短くできるから、装置本体 1 を短い筒体形状とすることができる。

また、装置本体 1 の内径は電池 8 の大きさに関係なく任意の大きさにできるので、ファン 5、薬剤保持体 6 の径方向の大きさを電池の大きさに関係なく任意の大きさにできる。

また、装置本体 1 の内径を大きくせずに多数本の電池 8 を収容することが可能で、継続して長時間使用できる。

また、多数本の電池 8 を収容するようにしても装置全体が径方向に大きくならず、コンパクトにできる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 2 】

本発明の第 1 の実施の形態を図 1 ~ 図 4 に基づいて説明する。

装置本体 1 は筒体形状で、その装置本体 1 は、内部 1 a を外部に開口する第 1 流通口 2 と第 2 流通口 3 を有している。

前記装置本体 1 の内部 1 a には、モータ 4 と、このモータ 4 で回転するファン 5 と、薬剤保持体 6 が設けてある。

そして、モータ 4 でファン 5 を回転することで第 1 流通口 2 と第 3 流通口 3 に亘って空気が流れ、その空気が薬剤保持体 6 に触れて薬剤（有効成分）を揮散し、その揮散した薬剤が空気と共に大気に放散される。

【 0 0 1 3 】

前記装置本体 1 の外周に電池収容部 7 が設けてある。

この電池収容部 7 に電池 8 が収容され、その電池 8 を電源として前記モータ 4 が回転する。

【 0 0 1 4 】

このようであるから、装置本体 1 の長さはモータ 4、ファン 5、薬剤保持体 6 を設けることができる長さであれば良く、電池 8 の長さに関係なく装置本体 1 を短くできるから、装置本体 1 を短い筒体形状とすることができる。

また、装置本体 1 の内径を電池 8 の大きさに関係なく決定できるので、ファン 5、薬剤保持体 6 の径方向の大きさを電池 8 の大きさに関係なく任意の大きさにできる。

また、収容できる電池 8 の本数が多く、継続して使用できる時間を長くできる。

【0015】

次に、電池収容部 7 の詳細を説明する。

前記装置本体 1 の外周面 1 b に沿って周方向に等間隔で複数、例えば 4 つの電池収容部 7 が設けてある。

この各電池収容部 7 内に 2 本の電池 8 がそれぞれ収容され、その各電池 8 は装置本体 1 の長手方向に向いている。

【0016】

10

このように、装置本体 1 の外周面 1 b に沿って電池 8 を、その装置本体 1 の長手方向に向けて周方向に順次収容するようにしたので、多数本の電池 8 を収容でき、しかも装置全体が径方向に大きくなることなくコンパクトにできる。

【0017】

また、装置本体 1 の外周に複数の電池収容部 7 が、周方向に等間隔で設けたことにより、装置全体の径方向の重量バランスが均一となる。

したがって、装置本体 1 を、その長手方向が上下方向に向かうように設置、つまり縦向きに設置したときに、装置全体が倒れることがなく、安定して縦向きに設置できる。

【0018】

20

この実施の形態では、装置本体 1 の外周面 1 b に嵌合して取付けられる筒体 7 a に、コ字状片 7 b を周方向に等間隔で複数、例えば 4 つ設け、この各コ字状片 7 b と筒体 7 a とで空間部 7 c をそれぞれ形成し、その各空間部 7 c の長手方向一端開口部を底壁 7 d で閉塞し、長手方向他端開口部に蓋 7 e を着脱自在に取付けて電池収容部 7 としてある。

【0019】

このようにすれば、装置本体 1 と電池収容部 7 を別々に製作し、装置本体 1 の外周面 1 b に嵌合して取付けることで組み立てできる。

【0020】

前記装置本体 1 は、外側筒体 1 0 と、この外側筒体 1 0 の内周面 1 0 a における長手方向一端寄りに嵌合して取付けたモータ取付用の内側筒体 1 1 を有している。

30

前記内側筒体 1 1 は底板 1 2 を備え、その底板 1 2 にモータ 4 が取付けてあると共に、空気流通口 1 3 が形成されている。

このようであるから、内側筒体 1 1 にモータ 4 を取付けた状態で、その内側筒体 1 1 を外側筒体 1 0 の内周面 1 0 a に長手方向一端開口部から嵌合して、底板 1 2 を内向突起 1 0 b に当接することでモータ 4、ファン 5 を装置本体 1 に取付けできるから、そのモータ 4、ファン 5 の取付け作業が容易である。

【0021】

前記内側筒体 1 1 の開口端には網 1 4 を有したリング体 1 5 が嵌合して取付けてあり、その内側筒体 1 1 内に人の指を入れることを防止し、誤ってファン 5 に人の指が触れることがないようにしてある。

【0022】

40

前記薬剤保持体 6 は、通気性を有する容器 6 a 内に粒状の薬剤含浸体 6 b を多数充填したもので、その容器 6 a を装置本体 1 の内部 1 a における長手方向他端寄りに嵌合して取付けてある。

【0023】

この実施の形態においては、前記モータ 4 を交互に正逆回転駆動し、かつ正回転駆動する時間と逆回転駆動する時間を、それぞれ任意に設定するモータ駆動制御手段 9 を備えている。

そして、前記モータ 4 を正回転駆動してファン 5 を正転すると、図 2 に示す実線矢印で示すように、第 1 流通口 2 から第 2 流通口 3 に向けて空気が流れ、薬剤を空気とともに第 2 流通口 3 から放散する。

50

前記モータ４を逆回転駆動してファン５を逆転すると、点線矢印で示すように、第２流通口３から第１流通口２に向けて空気が流れ、薬剤を空気とともに第１流通口２から放散する。

つまり、モータ４は可逆モータを用いている。

【００２４】

このようであるから、装置本体１を１つの被害場面に、第１流通口２が第１被害空間に向かうと共に、第２流通口３が第２被害空間に向かうように設け、モータ４の正回転駆動と逆回転駆動を交互に繰り返してファン５を正転、逆転を交互に繰り返すことによって、薬剤保持体６に空気が触れることで揮散した薬剤の全量を第１被害空間と第２被害空間に交互に放散できる。

10

【００２５】

しかも、モータ駆動制御手段９によってモータ４の正回転駆動時間と逆回転駆動時間をそれぞれ任意に設定できるので、ファン５の正転時間、逆転時間を、第１・第２被害空間が必要とする薬剤の量に見合うように設定できる。

【００２６】

したがって、１つの被害場面における２つの被害空間に、各被害空間が必要とする量の薬剤をそれぞれ放散することができるから、各被害空間を十分に薬剤処理できる。

【００２７】

前記モータ駆動制御手段９は、モータ４を交互に正回転駆動、逆回転駆動するコントローラ９ａと、正回転駆動時間を設定する第１設定器９ｂと、逆回転駆動時間を設定する第２設定器９ｃを備えている。

20

前記第１・第２設定器９ｂ、９ｃは手で回転可能で、かつ回転することで駆動時間を設定してコントローラ９ａに入力する。

コントローラ９ａは、入力された正回転駆動時間だけモータ４に正回転通電し、その設定した時間が経過したら逆回転駆動時間だけモータ４に逆回転通電し、これを繰り返す。

【００２８】

なお、ファン５は一方向にのみ回転するようにしても良い。

【００２９】

前述した実施の形態においては、ファン５と電池収容部７を装置本体１の長手方向中間部にそれぞれ設けてあるが、そのファン５は装置本体１の長手方向一端寄り部、他端寄り部のいずれかに設けることができるし、電池収容部７も装置本体１の長手方向一端寄り部、他端寄り部のいずれかに設けることができる。

30

要するに、ファン５、電池収容部７は装置本体１における長手方向任意の位置に設けることができるし、ファン５、電池収容部７を異なる位置に設けることもできる。

【００３０】

前述した実施の形態では、電池収容部７を複数設けたが、装置本体１の外周面１ｂに沿ったリング形状の１つの電池収容部７を設けても良い。

この場合には、リング形状の電池収容部７に電池８を周方向に連続して収容したり、放射状位置に設けたり、１部分にのみ設けることができる。

40

【００３１】

前述した実施の形態では、筒体７ａに複数のコ字状片７ｂと底壁７ｄを設けて電池収容部７とし、その電池収容部７を装置本体１と別体としたが、電池収容部７を装置本体１の外周面１ｂに一体に設けることができる。

例えば、装置本体１の外周面１ｂに前述したコ字状片７ｂを一体的に設けて空間部７ｃとし、その空間部７ｃの一端開口部を底壁７ｄで閉塞すると共に、他端開口部に蓋７ｅを設けて電池収容部７とする。

【００３２】

前述した実施の形態では、装置本体１の外周面１ｂと内周面を円形としたが、外周面１ｂを多角形状としても良い。

50

例えば、図 5 に示すように装置本体 1 の外周面 1 b を 8 角形状とする。

図 5 においては、外側筒体 1 0 と内側筒体 1 1 で装置本体 1 としてある。

また、装置本体 1 の外周面 1 b にプレート 7 f を一体的に設け、そのプレート 7 f の外周縁に筒 7 g を一体に設けて空間部 7 f を形成し、前述の電池収容部 7 としてある。

なお、装置本体 1 の内周面を多角形状としても良いがファン 5 の回転によって空気が流通するので、装置本体 1 の内周面は円形状が好ましい。

【 0 0 3 3 】

前述の実施の形態では、装置本体 1 の長手方向両端部を開口して第 1 流通口 2、第 2 流通口 3 としたが、その第 1・第 2 流通口 2, 3 は装置本体 1 の外周面 1 b に開口するように形成しても良い。

例えば、図 6 に示すように、装置本体 1 を一端開口部が端板 1 c で閉塞し、他端開口部が開口した筒体形状とし、その装置本体 1 の一端寄りに孔 1 d を形成して第 1 流通口 2 とする。

または、図 7 に示すように、端板 1 c に孔 1 e を形成して第 1 流通口 2 とする。

そして、図 6、図 7 においては、装置本体 1 の他端開口部を第 2 流通口 3 とし、その第 2 流通口 3 に薬剤保持体 6 が嵌合してある。

【 0 0 3 4 】

図 6 においては、空気流通孔 1 6 を有するプレート 1 7 にモータ 4 を取付け、そのプレート 1 7 を装置本体 1 内に挿入して固着することでモータ 4 を取付けている。

また、コ字状片 7 b を装置本体 1 の外周面 1 b に一体に設けて電池収容部 7 を装置本体 1 に一体に設けてある。

【 0 0 3 5 】

図 7 においては、モータの取付け、電池収容部 7 は前述した図 2 に示すものと同様としてある。

また、薬剤保持体 6 は内側筒体 1 1 の内周面に嵌合して取付けてある。

【 0 0 3 6 】

前述の各実施の形態では、装置本体 1 の外周面 1 b を長手方向全長に亘って凹凸のない平坦面で、電池収容部 7 の装置本体 1 の外周面 1 b からの突出寸法が大きくなるようにしてあるが、装置本体 1 の外周面 1 b を大径部と小径部を有する段付き形状とし、その小径部に電池収容部 7 を設けることで、その電池収容部 7 の装置本体 1 の外周面 1 b からの突出寸法を小さくすることができる。

【 0 0 3 7 】

例えば、図 8、図 9 に示すように、装置本体 1 を、長手方向中間の小径部 1 f と長手方向両端の大径部 1 g を有し、長手方向中間に環状の凹陷部 2 0 を備えた筒体形状とする。

前記装置本体 1 に、前記凹陷部 2 0 を閉塞するカバー体 2 1 を着脱自在に取付けて環状の空間部 2 2 を形成して電池収容部 7 とする。

【 0 0 3 8 】

このようにすれば、装置本体 1 の大径部 1 g とカバー体 2 1 を同一径とすることで装置本体 1 の外周面 1 b と電池収容部 7 の外周面を面一として突出寸法をゼロにできる。

【 0 0 3 9 】

この場合、カバー体 2 1 が筒形状であると装置本体 1 への取付け、取り外しが困難であるから、カバー体 2 1 を周方向に分割して取付ける。

例えば、図 9 に示すように装置本体 1 の小径部 1 f に取付片 2 3 を周方向に間隔を置いて設け、その周方向に隣接した取付片 2 3 間にカバー体 2 1 をそれぞれ取付ける。

なお、図 8 と図 9 に示す実施の形態においては、第 2 流通口 3 側に薬剤保持体 6 が取付けてあるが、前述の他の実施の形態と同様に薬剤保持体 6 を第 1 流通口 2 側に取付けることができる。

【 0 0 4 0 】

前述の小径部 1 f は長手方向中間に限ることはなく、長手方向一端又は長手方向他端、長手方向両端に設けても良い。

10

20

30

40

50

例えば、図 10 と図 11 に示すように、装置本体 1 を長手方向一端側の大径部 1 g と長手方向他端側の小径部 1 f を有した段付きの筒体形状とする。

前記カバー体 21 を、筒 21 a の長手方向一端周縁にリング状の端面板 21 b を設けた形状とし、その端面板 21 b を装置本体 1 の小径部 1 f の外周面に接すると共に、筒 21 a の長手方向他端周縁を装置本体 1 の大径部 1 g に当接してカバー体 21 を装置本体 1 に取付けて空間部 22 を形成し、電池収容部 7 とする。

【0041】

前述の各実施の形態においては、装置本体 1 の大径部 1 g とカバー体 21 を同一径として電池収容部 7 の装置本体 1 の外周面 1 b からの突出寸法をゼロとしたが、カバー体 21 を装置本体 1 の大径部 1 g よりも大径として電池収容部 7 を装置本体 1 の外周面 1 b から突出するようにしても良い。

10

例えば、図 12 に示すように、カバー体 21 を、筒 21 a の長手方向両端縁にリング状の端面板 21 b をそれぞれ設けた形状とし、その一方の端面板 21 b が装置本体 1 の小径部 1 f と大径部 1 g を連続する段差部 1 h に当接するようにすることで、筒 21 a が大径部 1 g よりも突出するようにする。

【0042】

前述した図 8 ~ 図 12 に示す実施の形態では空間部 22 を環状として周方向に連続した空間部 22 としたが、周方向の一部分にのみ空間部 22 を単数又は複数有するものとしても良い。

例えば、図 13 に示すように、装置本体 1 の長手方向中間に凹部 24 を周方向に間隔を置いて形成し、各凹部 24 にカバー体 21 をそれぞれ取付けて空間部 22 を形成して電池収容部 7 とする。

20

【0043】

前記カバー体 21 は円弧片 21 c の長手方向両端に端面板 21 d、周方向両側に側面板 21 e を有する形状で、その円弧片 21 c が装置本体 1 の大径部 1 g よりも突出している。

これに限ることはなく、円弧片 21 c と装置本体 1 の大径部 1 g が面一に連続するようにしても良い。

【0044】

前述した図 8 ~ 図 12 に示す実施の形態では、装置本体 1 の小径部 1 f にファン 5 を設けたが、大径部 1 g にファン 5 を設けても良い。

30

【0045】

前述の各実施の形態では薬剤保持体 6 を、第 1 流通口 2 と第 2 流通口 3 のどちらか一方側にのみ取付けしたが、第 1・第 2 流通口 2, 3 側の両方に薬剤保持体 6 をそれぞれ取付けても良い。

例えば、図 14 に示すように、装置本体 1 を長手方向両端がそれぞれ開口した筒体形状とし、その一端開口を第 1 流通口 2、他端開口を第 2 流通口 3 とする。

前記第 1 流通口 2 と第 2 流通口 3 に薬剤保持体 6 をそれぞれ取付ける。

この場合には、薬剤保持体 6 を、通気性を有すると共に、薬剤を含浸したシートをハニカム形状としたものが好ましい。

40

【0046】

前述の各実施の形態ではファン 5 を 1 つとしたが、装置本体 1 に 2 つのファン 5 を取付けるようにしても良い。

例えば、図 15 と図 16 に示すように、装置本体 1 の内部 1 a を仕切板 30 で一側内部 1 a - 1 と他側内部 1 a - 2 に区画する。

前記装置本体 1 に、一側内部 1 a - 1 を外部に開口する第 1 流通口 2、第 2 流通口 3 と、他側内部 1 a - 2 を外部に開口する第 1 流通口 2、第 2 流通口 3 をそれぞれ形成する。

そして、装置本体 1 の一側内部 1 a - 1、他側内部 1 a - 2 にモータ 4、ファン 5、薬剤保持体 6 をそれぞれ取付ける。

【0047】

50

前記仕切板 30 は、装置本体 1 の長手方向と平行に対して斜めで、この仕切板 30 を境として装置本体 1 の径方向両側、例えば上と下に第 1 流通口 2 がそれぞれ形成され、この仕切板 30 は各第 1 流通口 2 を流れる空気のガイドの役目を果たす。

これによって、各ファン 5 が回転することで一方の第 1 流通口 2 と一側内部 1a - 1、他方の流通口 2 と他側内部 1a - 2 に亘って空気がスムーズに流れる。

【0048】

前記電池収容部 7 は装置本体 1 の外周における第 1 流通口 2 の周方向両側にそれぞれ設けてあり、その第 1 流通口 2 を流通する空気の流れが電池収容部 7 で阻害されることがない。

【0049】

また、図示は省略するが装置本体 1 の長手方向一端開口部を第 1 流通口 2、長手方向他端開口部を第 3 流通口 3 とし、この装置本体 1 の内部 1a に 2 つのモータ 4 と 2 つのファン 5 を設けても良い。

この場合、2 つのファン 5 の向きを長手方向に同一、又は反対とすることができるし、2 つのファン 5 による空気の流れ方向を長手方向に同一、又は反対とすることができる。

【0050】

また、図 17 に示すように装置本体 1 の小径部 1f には小径のファン 5 を設け、大径部 1g には大径のファン 5 を設けて小径のファン 5 を回転した時の送風量が小径のファン 5 を回転した時の送風量よりも少なくしても良い。

このようにすれば、小径のファン 5 のみを回転したとき、大径のファン 5 のみを回転したとき、小径のファン 5 と大径のファン 5 を回転したときで送風量が異なるから、薬剤の単位時間当たりの揮散量、拡散範囲を調整することが可能である。

この場合には、第 1 流通口 2、第 2 流通口 3 のどちらか一方、又は両方に薬剤保持体 6 を取付けできる。

【0051】

前述の各実施の形態では装置本体 1 が一直線状であるが、鉤形状、L 字形状、円弧形状などとすることもできる。

【図面の簡単な説明】

【0052】

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態を示す薬剤放散装置の正面図である。

【図 2】図 1 の A - A 断面図である。

【図 3】図 1 の左側面図である。

【図 4】図 1 の右側面図である。

【図 5】本発明の第 2 の実施の形態を示す装置本体と電池収容部部分の断面図である。

【図 6】本発明の第 3 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 7】本発明の第 4 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 8】本発明の第 5 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 9】図 8 の B - B 断面図である。

【図 10】本発明の第 6 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 11】図 10 の C - C 断面図である。

【図 12】本発明の第 7 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 13】本発明の第 8 の実施の形態を示す装置本体と電池収容部部分の断面図である。

【図 14】本発明の第 9 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【図 15】本発明の第 10 の実施の形態を示す薬剤放散装置の側面図である。

【図 16】図 15 の D - D 断面図である。

【図 17】本発明の第 11 の実施の形態を示す薬剤放散装置の断面図である。

【符号の説明】

【0053】

1 ... 装置本体、1a ... 内部、1a - 1 ... 一側内部、1a - 2 ... 他側内部、1b ... 外周面、2 ... 第 1 流通口、3 ... 第 2 流通口、4 ... モータ、5 ... ファン、6 ... 薬剤保持体、7 ... 電

10

20

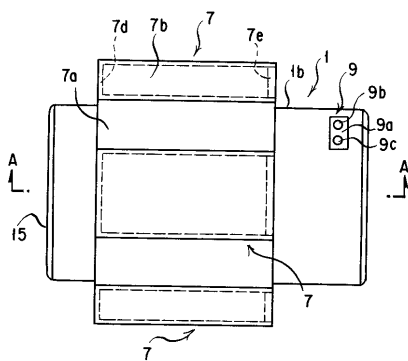
30

40

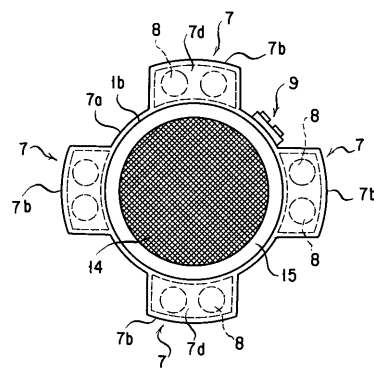
50

池収容部、8 ... 電池、10 ... 外側筒体、11 ... 内側筒体、12 ... 底板、13 ... 空気流通孔、16 ... 空気流通孔、17 ... プレート、20 ... 凹陷部、21 ... カバー体、22 ... 空間部、30 ... 仕切板。

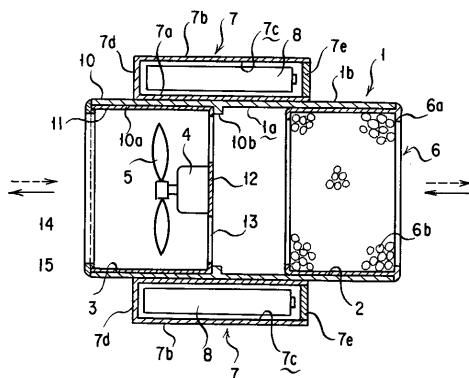
【図1】



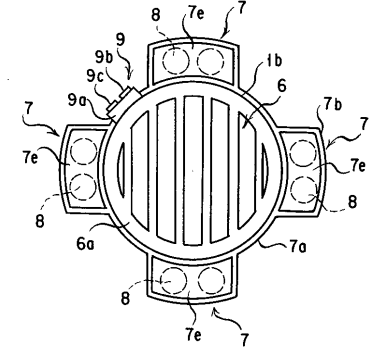
【図3】



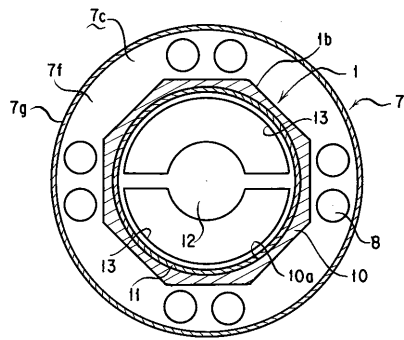
【図2】



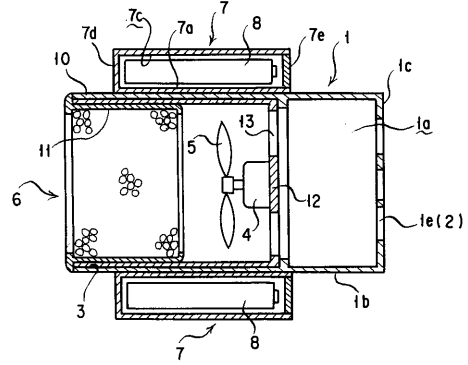
【図4】



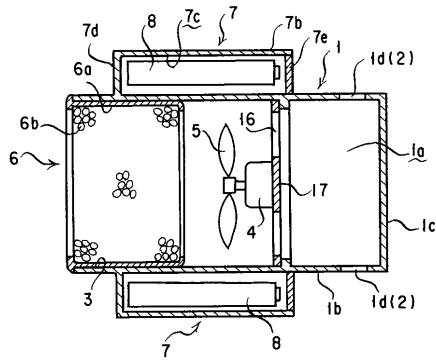
【図 5】



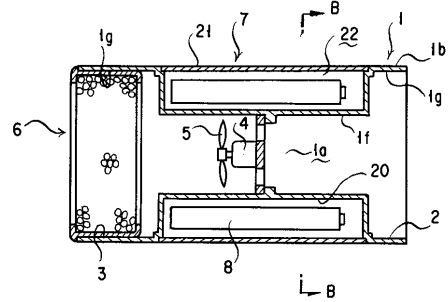
【図 7】



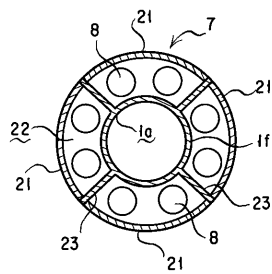
【図 6】



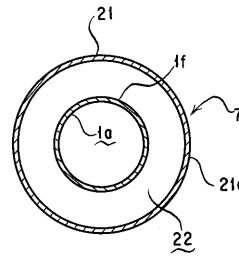
【図 8】



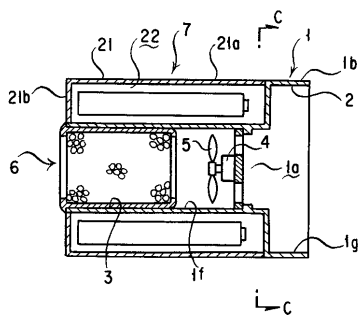
【図 9】



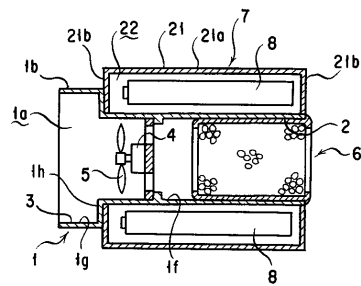
【図 11】



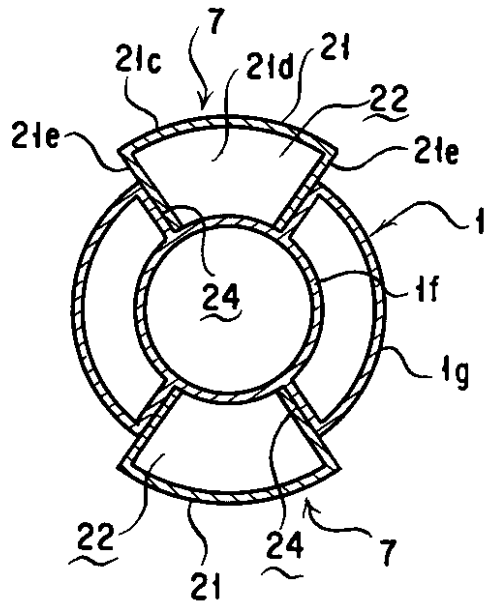
【図 10】



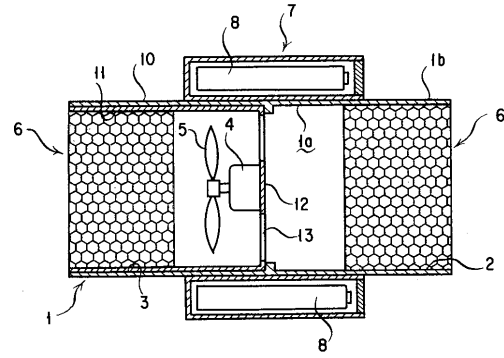
【図 12】



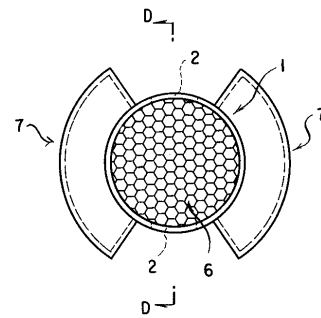
【図 13】



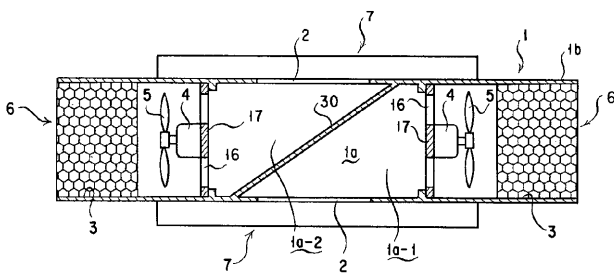
【図 14】



【図 15】



【図 16】



【図 17】

